

ガバナー退任にあたって



国際ロータリー第2660地区

ガバナー

進藤 雅彦

ようやく一年が経過し、無事退任することができました。同期のクラブ会長、幹事の皆様、地区委員会委員長はじめすべての委員の皆様そして地区ロータリアンの皆様、心からのご支援有難うございました。厚く御礼申し上げます。今回は、昨年6月末、土井ガバナーエレクトが突然病気のためガバナー就任を辞退されたため、紆余曲折のち私がお引き受けせざるを得ないこととなりました。物好きだという陰口もあったようですが、限られた資格者の中で誰かがやらねばならないことであり、最後に生来の男気が頭をもたげ、このような結果となりましたことを一言申し上げておきたい思います。ただし、土井さんのピンチヒッターではなく、就任させて頂く以上、私のフィロソフィーでガバナー年度を務めさせて頂くことを条件にさせて頂きました。諮問委員会の皆様ならびにホストクラブであります大阪北RCならびに同クラブ出身の菅生PGから全面的な支援を頂くことをお申し出頂きました。一ヵ月遅れての就任は、公式訪問に多大な影響があり、期間短縮を余儀なくされたため84クラブを12月初旬までに訪問するためには、夜の例会を含めて最悪の時は一週間に8回の訪問をせざるをえない時もあり、さらに、これに土、日の青少年関連の会合との重なりなどがあったときには足がふらついたこともありました。気力で無事期間内に公式訪問を終了することができましたが、今回は従来とは異なった方式をとらせて頂いたため、卓話に引き続き、意見交換の場としてのクラブ協議会において長時間にわたる議論の場での快い緊張が続いたせいかもしれません。

さて、今年度は『意識を喚起し一進んで行動を』というターゲットのもと皆様とともに奉仕活動に専念してきたつもりであります。前回私のガバナー年度の際は『ロータリーの心を』であり、これと結び付けての私の信念を皆様に聞いて頂きました。当時私はロータリーの原点は愛であり、愛にはじまって愛に終わると申し上げていましたが、このロータリーへの思いは何年経っても変わるものではなく、いまでも同じでありますと申し上げました。そして、私たちは再びその原点に立ち戻り、I Serveの心をもって救いを求める人達に手を差し伸べましょう。ただし、その人達が何を望んでいるか、すなわちニーズを的確に把握することが大切であり、それに向かってただちに行動を起こす、このことが取りもなおさず今年度のターゲットに繋がるものであると申し上げました。また、最近のロータリアンの質の問題についてもお願い致しました。最近、新聞紙上で話題となる指導者が多く、そのほとんどの人達は社会に対する使命感の欠如による行動に起因した事件の責任を問われています。それはトップの人達の使命感の欠如が下部組織にまでひろがり、結果として全体の無責任体制への移行に繋がってしまったことによると思われまます。われわれロータリアンはお互いに社会に対する使命感を率先して強めることを自覚しましょうとお願いしました。そのためにはロータリーの綱領を読み返し、真のロータリー精神をもう一度心に刻み直しましょうと申し上げました。

会員増強、社会奉仕、国際奉仕、青少年活動、財団寄付、米山寄付、広報活動、親睦活動などに関

し多くのお願いをしましたが、その中でも私としては青少年への奉仕活動としての教育問題を大きなテーマとしてお願いしました。今わが国では戦後教育の成果について論議が巻き起こっています。最近の青少年犯罪、倫理感の低下、国家感の喪失、家庭教育の欠如などをとおして心の教育の必要性が強調され教育改革に向かって大きなうねりとなって進みつつあります。心の教育はまさに今後の教育にとって不可欠のものではありますが、もうひとつ忘れてはならないことは青少年の学力低下の問題であります。とくに数学、物理、化学、生物の基礎学力の著しい低下であります。過去において世界最高水準であった青少年の学力は今や2流に落ちてしまっていることを憂慮すべきであります。そして、最近ではゆとりある教育と称してさらにこれに拍車をかけるような教育を提唱する人も現われています。最近の子供達の理科離れは甚だしく、このままでは技術立国、IT先進国などのんきなことをいっている状態ではないことを自覚すべきであります。その地域における最高の知識、経験、実力を兼ね備えているロータリアンは、今こそ、その叡知を結集して一国の将来を左右する教育問題に取り組むべき時であります。前回のガバナー年度において教育問題特別委員会を組織し、委員の先生方に3年かけて教育問題に関する提言をまとめて頂くようお願いしました。奇しくもその年度に私が再びガバナーに就任させて頂きました。そして、いよいよ出版の運びとなりました。これを読んで頂き、これを出発点として大きな論議が起これ、それがわが国の教育改革の進むべき方向に示唆を与えることになればと祈っています。菅生担当PG、松岡委員長はじめ委員の先生方のご苦勞に心から感謝申し上げます。そして、この問題は今年度のみのもではなく、教育問題は永遠の課題であり、成果があらわれるに多大の時間を要することを考えて頂きたいと思えます。

青少年活動に関しては、ロータリーが支援する青少年の各グループの横の連携を強化する試みをしてみました。これらの青少年こそ次のロータリーを背負ってくれる若者であるからです。これほどの素晴らしい青少年グループに対し、あまりにも一般のロータリアンの関心が低いことは残念でなりません。何とかすべてのロータリアンが関心を持ち、積極的に支援してくれるようになってくれればと願っています。今年度の地区大会の決議事項の中に、地区委員会の青少年部門に青少年関連委員会のすべての代表によって構成された新世代合同委員会を設置し、同時に設置された青少年側の合同委員会とてRI2660地区新世代合同協議会を設立することを提案し決議して頂きました。大森担当PGを委員長として活躍して頂くようお願いしました。今年度の地区大会においてローターアクト、ライラ、インターアクト、ROTEX、GSE、米山学友会をはじめロータリー関連のすべての青少年グループの代表にステージに上がって頂き、それぞれ挨拶して頂きました。そして、これだけの素晴らしい青少年が私たちを見てくれていることを頼もしく思うとともに、彼等が将来ロータリアンになりたいと思ってくれるよう私たち自身さらに研鑽を積むと同時に、彼等にとって魅力あるクラブづくりに邁進しようと呼びかけました。子供は親の背中を見て成長するといわれます。素晴らしい背中を見せて皆が後を繋いでくれることを祈りますと申し上げました。あせって数だけをそろえる会員増強より、時間はかかるかもしれませんが、これほど素晴らしい会員増強の方法はないのではないでしょうか。今後の委員会の活躍を切に願っています。

最後に何年たっても直らないのが、メーキャップ問題であります。これに関しては思いきった方法をとりましたが、まだまだです。永遠の課題などいわれたくないものです。皆様の自覚を待つのみです。

とにかくこの一年間、相変わらず独断先行的行為を続け、皆様にご迷惑をお掛けしたと思えますが、ロータリーにかける思いがそうさせたという言い訳に温かく笑って頂ければ幸いです。寺田ガバナーのもと素晴らしい年度となりますことを心からお祈りします。

終わりに井上ガバナー補佐、永野地区アドバイザーの友情に心から感謝申し上げます。事務局の皆さんとくにご苦勞をかけた小林さんに誠意を表します。また、古市 実氏をはじめ私に対し特別のご厚誼を頂いた方々に御礼を申し上げ1997～8年度PGにかえらせて頂きます。有難うございました。